

児童生徒が資料から問いを見出し、クラウド上から資料を選択し、話し合いながら比較・分類・総合・関連付け等をし、課題を解決していく授業。

## 子供の視点から

- ①本単元で扱う題材について、子どもたちが何をどこまで知っていたり、どう感じているか等を把握するために、アンケートツール等を用いたアンケートを単元の導入を行う。
- ②導入でクラウド上に置いた2枚の写真を児童生徒が比較して見る場面を設け、気付いたことを出し合い児童生徒の気付きから学習問題を設定する。



児童・生徒が課題を解決する授業

## 教材の視点から

- ・NHKforSchool動画、地理院地図、重ねるハザードマップ、REASUS等から適切な資料を教師がクラウド上に置き、児童・生徒がその中から資料を選択し、調べることができるようにする。



## 問題解決の過程の視点から

- ①資料から読み取ったことを付箋ツール等を用いて書き出す。その後、比較・分類・総合・関連付け等の視点を持ちながらグループで話し合い、付箋を移動させる活動を行う。
- ②①で他グループが記入した付箋ツールの画面を見て、自分のグループとの相違点に着目し比較して見る。



## StuDX Style (文部科学省より)

[https://www.mext.go.jp/content/20210609-mxt\\_kyoiku01-000015438\\_js.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210609-mxt_kyoiku01-000015438_js.pdf)



# 実践報告 中学校1年生 地理「ヨーロッパ州」

## アップデートしよう

- ①導入や終末でクラウドアンケート等を使用し、立場や考えを共有、比較できるようにする。
- ②前時や単元で入力した、自分や友の考えを閲覧できるようにし、学習の積み重ねと、友との協働の中で学べるようにする。

## 使用したアプリ

- 〈導入〉
- ・クラウドアンケート
- 〈展開〉
- ・チャット機能
- 〈振り返り〉
- ・クラウドアンケート
  - ・表計算ソフト

## 本時のねらい

イギリスがEUを離脱したことのメリット、デメリットについて、立場の違うイギリス人の考えが分かる資料を基に、友の考えに触れながら話し合い、多面的・多角的な視点から自分の考えを明確にすることができる。

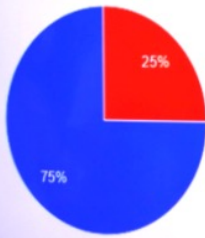
導入	アンケート	学習問題に対する一人一人の考えを共有する ※考えを入力 ※グラフ化したものを共有 <b>写真①②</b>	★授業始めと終わりの2回、クラウドアンケートに自分の立場を入力する機会を設け、グラフ化されたものを提示することで、考えの変容を視覚化しています。
	展開	資料を基に話し合う ※資料や、前時の自分、友のチャットへの書き込みを見ながら <b>写真③④</b>	
	終末	アンケート	



投票するとしたら、イギリスのEU離脱に賛成か？反対か

①

28件の回答



③

● 賛成

○ 反対

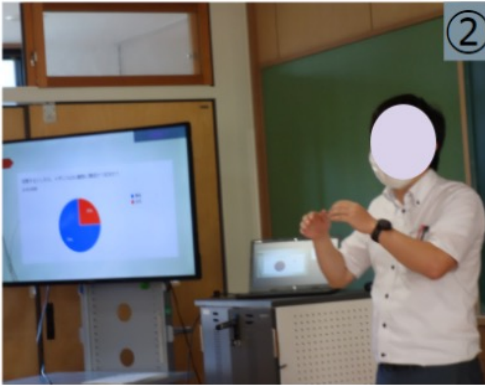
⑤

賛成（反対）の理由を教えてください。

やっぱりメリットよりもデメリットの方がイギリスにとってのダメージ  
重く所がなくなってしまったらイギリスの人が生きていけないから離脱  
しました。

今日の授業を通じて感じたこと・考えたことを書いておこう。

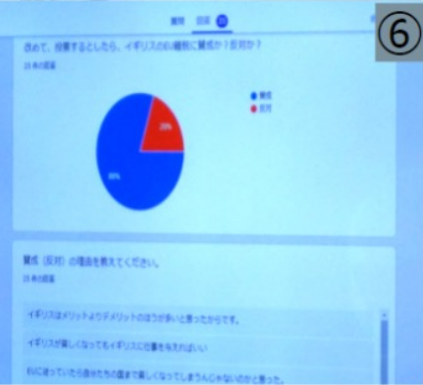
回答を入力



②



④



⑥

## 児童生徒の姿から

**〈導入〉**「投票するとしたら、イギリスのEU離脱に賛成か？反対か？」という前時に据わった学習問題に対し、生徒はクラウドアンケートに自分の立場を入力し、グラフ化されたものを教師が提示しました。**【写真①②】**「仕事がなくなるから、賛成」「輸出入に税金がかかるから、反対」など相反する意見が出され、友の意見を聞きたくなくなった生徒は、グループでの話し合いに入りました。グラフを提示することにより友との立場の違いを明確につかんだり、相反する意見にふれたりすることで、追究意欲や話し合い活動への必要感が高まりました。

**〈展開〉**「複数の立場のイギリス人の声」の資料を読み取ったり、前時にチャットで入力した、自分や友の考えを見返したりしながら、「仕事の奪い合いになってしまう。賛成」「移民が増えると仕事の奪い合いになる。関係しているね」「他のEU諸国との関係が悪くってしまうかも。反対」などと話し合っていました**【写真③④】**。資料やチャットを手元で見ながら話し合うことで、根拠を明確にして考えを伝えたり、多面的・多角的に考えたりすることができていました。

**〈振り返り〉**話し合いの後、生徒は再度自分の立場と理由をクラウドアンケートに入力し**【写真⑤】**、グラフ化されたものを教師が提示しました。「仕事が奪われる」「関税が高い」などを理由に、離脱に賛成とした生徒が増えていました**【写真⑥】**。2つのグラフを見比べ、「おっ」と声をあげる生徒もあり、追究の手応えを感じている様子でした。また、同時共同編集により友の振り返りも見ることができたため、「やっぱりメリットが多い」と書き加える生徒もいました。

## 授業者の先生から

端末を用いて互いに打ち込んだ考えを文字で見ながら話し合うことで、生徒たちはより自信をもって話し合うことができるようになってきました。一人一台端末を用いることにより、資料に関連する事柄をさらに調べたり、異なる立場の友の意見を見返す姿が見られるようになりました。追究の場面で付箋ツール等を用いて同時共同編集し、比較・分類するような活用方法もさらに研究していきたいです。

## この事例のポイント

- ・生徒の授業始めの考えと終わりの考えをグラフ化し、比較して見せることで、生徒自身が立場や考えの変容を自覚し、学びの手ごたえを感じることができる。
- ・クラウドアンケートはグラフに、表計算ツールは一覧表に、チャットは短文にというように、それぞれ異なったまとめ方で他者に提示することができる。教師、生徒が、そうしたアプリの特性を考えながら、目的や場面に応じてそれらを使い分けている。